

東北地区納税貯蓄組合連合会長賞

## 税について

福島市立福島第三中学校

三年 川野 恵 菜

期末テストが終わっても、受験を控えた今年は開放感がない。三年生になって勉強に対する苦惱が増えてきた私を、母が祖父母も誘って猪苗代へラベンダーを見に連れ出してくれた。ちようど選挙前で、信号待ちしている時にある政党の候補者が交差点の角で演説をしていて、白い手袋をした応援の人が私達の車にチラシを持ってきた。母が車窓から受け取ると、それには「増税なき財政再建！」と赤で大きく書かれていた。「どの党がいいのかねえ」祖父母達が話し始め、妹が母に「税金ってなあに？」と聞いた。母は「そうねえ簡単にいうと国の大きなお財布のことだよ」と答えていた。私も自分の財布がある。本やペンなど気に入った物を自分で買う時、消費税を払ってるんだと私は母が妹に話すのを聞いてハツとした。猪苗代では広大な自然の中で紫色の花に包まれて、温泉にも入り癒さ

れた。そう言えば入湯税も税金だ。帰宅後私は国税庁のホームページを開き眺めた。私の払った5%は何に使われているのだろうか。税金は多分野にわたり様々な使われ方をしている事が分かった。図書館・公園などの施設、学校の備品、教科書、道路、ゴミの収集、救急車など、国民生活のあらゆる場面に賄われている。ヤブーみんなの政治の政治用語集で税金と検索すると、行政コスト・財政改革、道路特定財源など難しい言葉が分かりやすく説明されていた。税を知っていくと増税の必要性という大きな問題にぶち当たった。バブル時代のつけとも言われる箱物行政から現在までを考えると、金融危機に端を発し、不況が深刻化する中、国民の税に対する考え方もシビアになっていると政治番組で聞いたことがある。所得税と検索すると控除という言葉に出会い、老年者控除の廃止と年金控除額の縮小でお年寄りの税金が高くなっている事が分かった。

祖父は「確かに高いがお前達が安心して暮らしていける未来の為なら税も活きるってもんだ」と妹や私の頭をなでながら笑って話す事がある。国の借金の増加と少子高齢化が進むと両親の様な働く納税者の一人当たりの納税額も増える事になる。負担が増えるばかりで、この国の未来は一体どうなっていくのか漠然とした中にも不安を覚えた。いろんな政党が日本を良くしようと様々な言葉で政策方針や特色を伝えている。まだ選挙権もない私だが、この国で生きていく上で税にもっと関心を持たなければいけないと思った。政治とは難しいけれど人が人の為にする事。祖父が私達を想ってくれる様に、日本が互いを思いやる心を持った人達の集まりである国になれたなら、本当の意味で税を払う事を気持ち良いと感じられるのかもしれないと思った。

今は、自分の興味の範囲内でもいいから、意識の片隅に置いて生活し、数年後に納税者となり、そしてまたその先の未来に配偶者を持つ立場になった時には、自分の言葉で税を語れる社会の一員になりたいと思った。